

## 進路指導室から 第346号

### はじめに

12月に入りました。ついこの間まで、「ブラックフライデー」商戦が喧伝されていましたが、はやクリスマス商戦へと移行しています。

さて、12月6日（月）時点で、1月15日（土）・16日（日）に行われる大学入学共通テストまであと40日になりました。今年度の大学入学共通テストは、例年よりもやや早い実施になります。残された時間を踏まえながら、計画的に学習を進めていくことが求められます。

### 「第5回保護者対象進路研修会」について

12月4日（土）本校視聴覚教室で、「第5回保護者対象進路研修会」を行いました。当日は講師として、駿台予備学校広島校教務マネージャーの泉尾 淳太様をお招きし、「2022年度入試」について講演をしていただきました。なお、当日は、3年生の保護者を中心に80名の参加がありました。2022年度入試に臨むうえで、とても参考になる講演でした。是非、参加された方には、お子様と情報を共有していただきたいと思っています。

以下は、講演の中で印象に残った内容をまとめたものです。



#### ■ 第1 志望に合格できる生徒とは？

- 基礎・反復練習の大切さを知っている。
- 保護者や先生とコミュニケーションがとれている。
- 割り切りと切り替えが速い。
- ライバルがいる。≡ 問題を作成しあう。
- 生活（学習）リズムがキープできている。
- “時間”をつくることができる。
- 言い訳をしない。（ケアレスミス、量と質のバランス）
- 毎日、全科目に触れる。
- 答案作成能力 ≡ 丁寧に書く。

#### ■ 日々の取組で大切なこと！ - 基礎・基本（＝授業）を大切に

入試で問われる内容は教科書に準拠しており、学校の授業で習ったことが大半を占めます。つまり、授業（基礎・基本事項）の理解度が合否を分けます。第一志望に合格する受験生は、特別な知識をもっている人達ではありません。基礎・標準的な問題で失点しない、わからない箇所（穴）が少ない人です。

大学受験は高校の授業・学習の延長線上にあります。「予習」→「復習」→「復習・質問」の学習習慣を重視し、「漏らさず学びとる」姿勢で「授業」を受け、「復習（理解・定着）」を徹底することです。

#### ■ 自己採点は正確に

駿台予備学校の高卒生を対象とした調査によると、共通テスト模試の自己採点で、低めに自己採点した生徒は全体の25%で、高めに自己採点した生徒は61%を占めました。そのうち、10点以上高めに自己採点した生徒は21%です。このうち40点以上の差がある生徒は、科目選択のマークミスが多くなっています。また、曖昧な解答控の場合、自分に甘くなって高めに自己採点をする生徒が多いようです。

以下は、教科別の自己採点でミスをしている割合です。

〔駿台高卒生（一部）自己採点でミスしている割合（教科別）〕

	2019年度	2020年度
国語	28.9%	38.1%
数学①	44.7%	54.4%
数学②	36.3%	46.5%
英語（リーディング）	34.1%	32.6%
英語（リスニング）	17.0%	48.1%
地歴公民	29.0%	33.1%
理科	26.6%	33.9%

リスニングの自己採点ミスの割合が増加しています。その要因として、大学入学共通テストになり、「1回読み問題」が新設されたことで、問題冊子に書き写す時間がなくなっている可能性があります。また、その他の教科・科目についても、問題数の増加により、大学入試センター試験の時より時間的余裕がないケースもあるようです。

マークミスをしなない対策としては、①問題全容を見る、②解く→問題に控える→マークする→確認の流れを習慣づける、③見直し時間も加味して演習を行う、ことが大切です。

## ■ 自分の考えを表現する「答案作成力」

大学は受験生に、①基礎・基本を理解しているか、②バランスの取れた学力、③論理力・思考力・総合力をみる、④国語力を重視する傾向、⑤それらを表現する力、等の力を求めています。それゆえ、独りよがりな答案は評価されません。答案は、採点者に見ていただくという意識で作成しなければいけません。①見出しをつける、②丁寧な字で書く、③バランスよく書く、④省略せず、途中計算も書く、部分点をとる意識をもつことが大切です。また、東京大学新聞に答案作成について、以下のようなメッセージが示されています、

自分の考えを人にわかってもらうための表現の重要性は受験だけにとどまらない。大学生になってからも、社会に出てからも求められる重要な力である。自分の考えによって、人を変え、社会を変えていくために、なくてはならない力である。答案の作成はそのための良い訓練だ。

「答案作成力」を高めるためには、答案見直しと合わせて、「採点講評」を確認することも必要です。「採点講評」には、採点基準が示されています。自分に何が足らなかったのかを振り返り、今後の「答案作成」に生かすことができます。

## ■ 子どもとの向き合い方

### □ 大学入試は長期戦 保護者も同様

大学入試を乗り越えるためには体力と精神力の持続が必須です。ともすればこの時期は弱気になりがちですが、単に合格を求めて偏差値等で受験校を決めるのではなく、入りたい大学に合格するための力をつけることが求められます。そのためにも、受験生はもちろんですが、保護者も長期的な視点で大学入試を見据えることが大切です。

### □ 保護者の影響力は絶大

保護者の弱気は、受験生の学力伸長に大きな影響を及ぼします。「子どもに苦勞させたくない」は、もしかしたら保護者の心の中に「子どもの苦勞は見たくない」との感情があるかもしれません。「もう無理！」は保護者が決めるものではありません。

### □ 大学受験の主役？

大学受験の主役は受験生です。大学受験を通して、「自覚」・「自力」・「自立」の力を育み、人生を生き抜く自信へと高めることができます。大切なことは、「努力する、継続する力」です。

## ■ 最良、最強の「応援者（サポーター）」として

保護者に求められることは、学習に専念できる以下のような環境づくりです。

### □ 食事をはじめとする健康管理・体調面でのサポート

### □ 受験校の方針があれば早めに本人に伝える。

### □ 「ほめる」・「しかる」・「放任」のバランス ← 「ほどほどに喝を入れてほしい」

### □ 最も不安でプレッシャーを感じるのはいはり本人

→ 動揺せず受け止めて、最良、最強の応援者（サポーター）でいてください。

### □ 受験会場で戦うのは本人であり、くれぐれも代行しないでください。

また、受験に際しては以下のような役割分担を担うことが大切です。

#### ◆ 本人：「主役」 ⇒ 選手

勉強・情報収集・志望校決定・受験

#### ◆ 学校：「技術指導」 ⇒ 監督

学習指導・受験情報の提供・進路指導

#### ◆ 保護者：「名脇役」 ⇒ 応援者（サポーター）

健康管理・生活習慣などの生活面・冷静で客観的な視点・人生の先輩としての知恵を伝授  
経済的な大枠を明示

## ■ 未来を創るのは、今の子どもたち

機会（チャンス）や挑戦（チャレンジ）等、子ども自身で「決断」していく経験は大切です。子どもの人生は子どものものであります。保護者をはじめ大人ができることは、成功も失敗も含めてたくさんの経験をさせてあげられるかどうかではないでしょうか。「気にかける」・「見守る」・「応援する」ことを心がけることが子どもの自立につながります。

## 終わりに

大学入学共通テスト後の情報交換に向けて全国の各高校とアポイントをとっています。メールの末尾には、「貴校の健闘をお祈りいたします」とありますが、ライバル校の生徒たちも頑張っているんだなと思いを寄せています。私自身も進路指導部の一員として強い気持ちをもって今年度の受験に臨みたいと思っています。

（文責：進路指導部 池本 邦彦）